

近年の災害対策の現状と課題

NPO大分県防災活動支援センター

事務局長

清松 幸生

今日の内容

- 災害の発生事例
- 防災対策
- その課題

兵庫県南部地震

(阪神・淡路大震災)

1995年1月17日

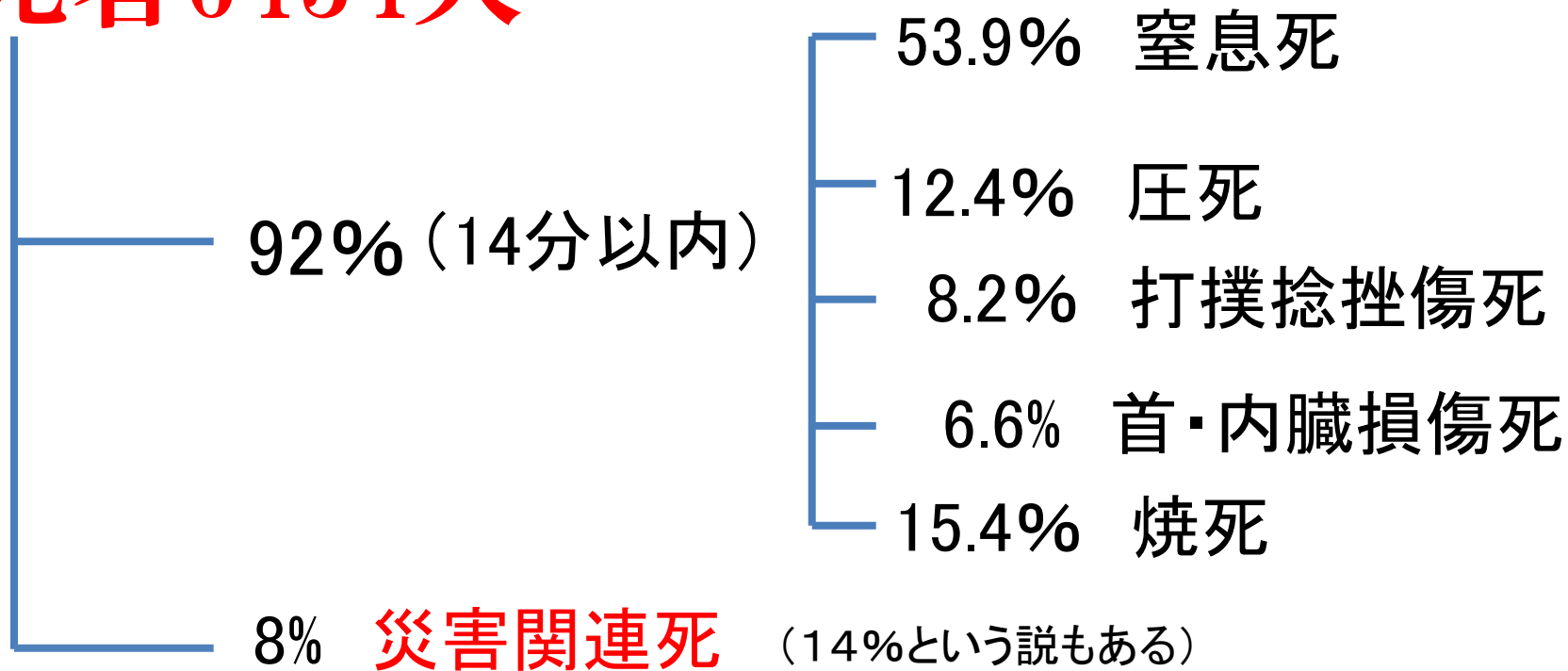
5時46分発生

M7.3

死者6434人



• 死者6434人



- 家屋の被害 昭和56年「新耐震基準」以前の**既存不適格**の建物中心に25万棟
- 地震直後、16万4千人が下敷き。
(8割の人が自力で脱出)
- 3万5千人が生き埋めになった。
 - ①**8割は近隣住民により救出**された。(2万7千人が生存)
 - ②公助による救出者8千人の半数が死亡。
 - ③全国から**災害ボランティア**(138万人)が駆け付けた。

・阪神淡路大震災で分かったこと

- わが国では災害の発生から逃れることはできないので、日頃から防災対策に国民一人一人が取り組む必要がある。**自分の命は自分でまもる「自助」**
- 大規模災害の場合、国や地方公共団体も被災するので、自衛隊、警察、消防の救助・救援がすぐには期待できない。
- 公助の力が及ぶまでの**3日間(72時間)**をいかに生き延びるかが重要である。



- 地域の総合的な力「**地域の防災力**」を向上させて助け合うことで住民相互の助け合い。(近助)
地域は地域でまもる「共助」(互助と協働)

新潟中越地震

(H16. 10. 23)



平成19年7月16日（2007年）中越沖地震





この建物は、
明治時代に
建てられた
もので、
国の重要文化
財に指定され
ています。



奉納



平成四年十月
先代 皇朝 公 尊 建 之

先祖代之墓
初代 野宮 氏 尊 建 之

皇 野 家

皇 野 家

昭和六十一年





東日本大震災 (H23年)



	死者	行方不明者	震災関連死	避難者
岩手	4674人	1116人	464人	8539人
宮城	9540人	1223人	926人	9133人
福島	1614人	196人	2202人	1万6471人
全国	1万5895人	2539人	3647人	7万3349人
	3月1日現在		昨年9月30日現在	2月13日現在

東日本大震災被災地支援活動

・ 宮城県石巻市にて支援活動

- ・ 4月17日～21日 物資の仕分け・支援物資配布・汚泥搬出



第2次救援活動



大分県防災活動支援センター救援隊



大分県防災活動支援センター第2次派遣隊は、日本財団の被災地救援助成を受けて石巻市災害復興支援協議会の調整の下、約1千食のたこ焼きパックとジュースなどの炊き出しをしました。

・5月1日～5日 5箇所にてたこ焼きの炊き出し

宗像市の市民ボランティアと



石巻駅横のにぎわい広場



東北被災地支援活動・復興調査交流活動

宮城県石巻市立大川小学校

東日本大震災

2012年3月11日 午後2時46分(M9.0)

ほとんどが津波による犠牲者

死者 15,892人

行方不明 2,574人

石巻市立大川小学校の悲劇

避難場所の未選定

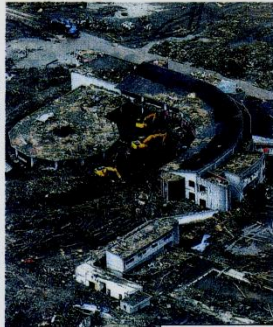
午後2時46分地震発生

午後3時 校庭で裏山に逃げる、逃げないと論議

午後3時25分 裏山でなく北上川の橋に移動開始

13分後、津波襲来、児童108人のうち74人が犠牲

なぜ、もっと早く...



74人死亡・不明の大川小

警戒感薄く
避難まで40分

東日本震災の津波で児童108人のうち74人が死亡・行方不明となった宮城県石巻市の大川小学校。避難を始めたのは地震から40分経った。周辺自治体は地震でも津波被害に遭っており、学校の警戒感の薄さが浮かぶ。「なぜ、早く逃げなかったのか」。保護者はやり切れない思いを抱えたままだ。

石巻市立大川小学校の児童・教職員の状況

	児童						計	教職員
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
在籍	14	20	20	18	15	21	108	13
生存	9(1)	3	3(1)	5	9(2)	5	34(4)	3(1)
不明	0	3	0	1	0	2	6	1
死亡	5	14	17	12	6	14	68	9

()内は津波到達当時小学校にいたが、裏山に逃げるなどして生存



大震災当日も、学校にいた児童20人と教職員は裏山に逃げた。津波は、地域の人から無言で知らせられた。津波の怖さを知っていた。

やり切れぬ学校「想定外の津波」
ぬ保護者 学校「想定外の津波」
約5分以内、108人の児童を一目見ると、橋や山崩れを配する余裕もなかった。明石川に津波が押し寄せ、約5分以内に児童が避難した。津波が押し寄せたのは、市広域が「想定外」だった。津波が押し寄せたのは、市広域が「想定外」だった。津波が押し寄せたのは、市広域が「想定外」だった。

大川小学校（石巻市）被害の要因分析

- 避難行動を開始するのに**40分間のロス**
学校が避難所に指定されていて次の避難場所
が選定されてなかったために、迅速な、判断と
避難ができなかった。

(避難場所は付近の広場、公園等に設定、高台を想定せず)2010年2月マニュアル

- **フェイルセーフ**の行動をとらなかった。
裏山に逃げず橋に避難しようと川に向かった。
(生徒4名と教師1名は裏山に逃げて無事)



新北上川河口

長面浦

大川小



長面浦

Image © 2011 TerraMetrics
© 2011 Geocentre Consulting
© 2011 ZENRIN

Google

像取得日: 2011/4/6

38° 33'33.66" N 141° 27'04.81" E 標高 2 m

高度

大川小学校



画像取得日: 2011/4/6

33° 32'44.35" N 141° 25'42.08" E 標高 12 m

高度 949 m

大川小学校跡



大川小学校（石巻市）被害の要因分析

- 避難行動を開始するのに40分間のロス
学校が避難所に指定されていて次の避難場所が選定されてなかったために、**迅速な、判断と避難ができなかった。**
- **フェイルセーフ**の行動をとらなかった。
裏山に逃げず橋に避難しようと川に向かった。
(生徒4名と教師1名は裏山に逃げて無事)

釜石の奇跡

防災教育の重要性が実証された

ほぼ100%の避難率、中学生が小学生の手をひいて、さらに高台に避難した。

悲劇の中の朗報

想定信じるな 最善の行動を 率先して避難

命救った釜石の教育

巨大な波が壊滅させた東日本大震災の津波から、自分の命を守り抜いた子どもたちがいる。岩手県釜石市立の小学校では、校内にいた児童生徒約3千人全員が無事だった。11日、震災から1カ月。掛け替えのない命を救った釜石の防災教育に注目した。

基礎知識刷り込む

「釜石は海の恵みを受け、その恵みを受けながら生きていく。津波を恐れるのではなく、上手に生きよう」というのが、この町のためにの作られた。2000年から釜石で防災教育に携わってきた片田孝教授、災害安全工学（学）は子どもたちに呼び掛け続けてきた。

要領は三つ。一つは想定を信じるな。市教育委員会なども津波の津波を想定し、避難経路を決定したハザードマップを作った。

子どもは、学校の避難計画を立てる。基礎知識を刷り込む。しかし「想定を信じるな」と教え、想定に頼るな。想定外の事態に備える必要がある。

二つ目は、その状況下で最善の避難行動を取ることに。事前にどんな想定をして、実際の津波は単純ではない。学校からの避難

難ではなかったが、親木への浸水に気が付いた。階は在だのために知恵を働か「外へ逃げよ」と訴えた。せ命守ったのは、釜石が「二人でも別の津波で助けた。6年生と7年生の兄弟で助け合った」と知っていた。既に校し、階連の避難を心。水が溢るシヨンの階にいた。1階増し、人は膝まで水に

既在校し、階連の避難を心。水が溢るシヨンの階にいた。1階増し、人は膝まで水に



釜石市立小の津波避難訓練の様子。津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波、小中学生3千人無事

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

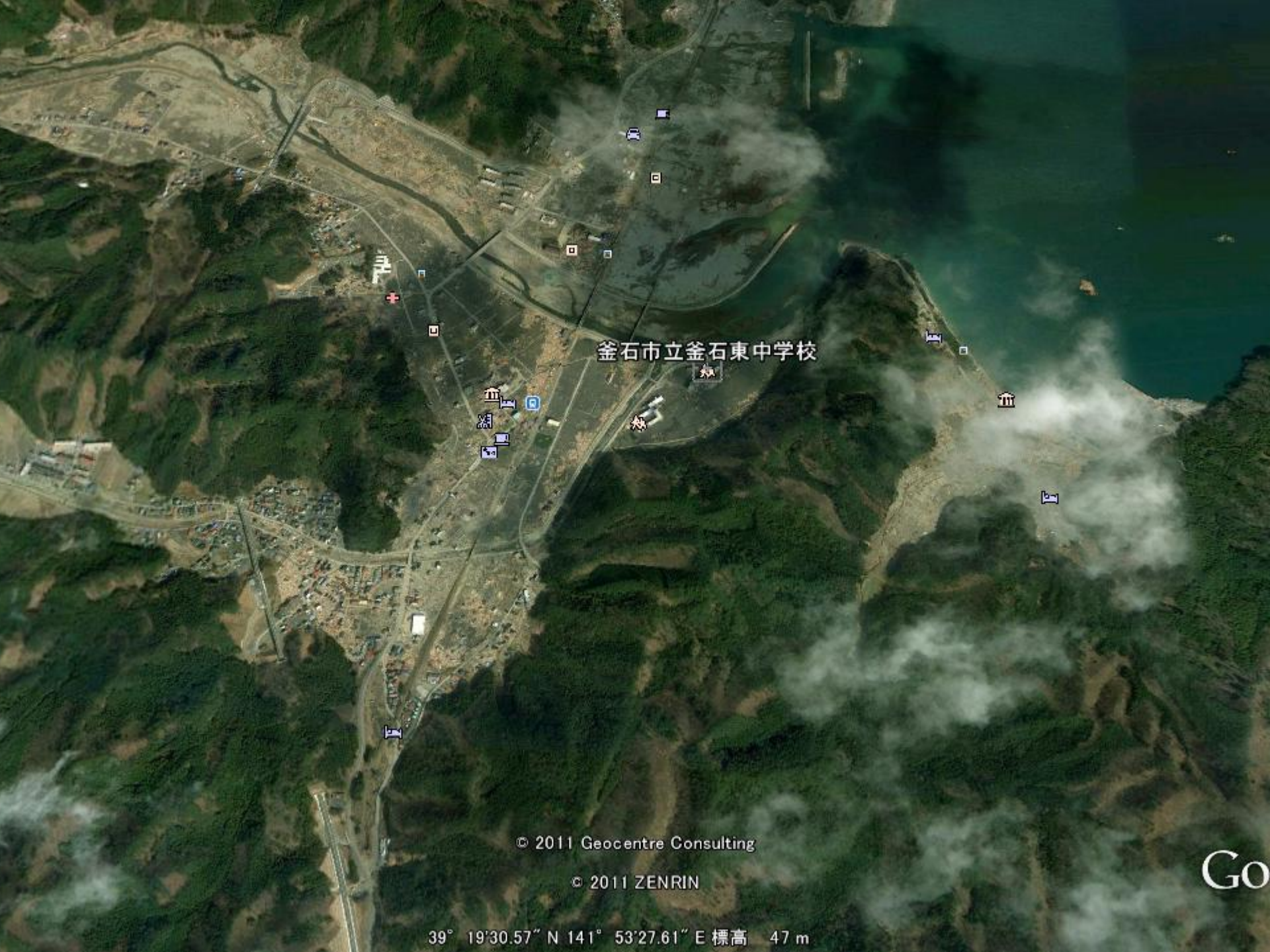
津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

津波が来ると想定し、避難経路をたどり、高台に避難した。入浴禁止の注意書きも掲示された。

釜石市、1,296人の死者・不明者



釜石市立釜石東中学校

© 2011 Geocentre Consulting

© 2011 ZENRIN

39° 19'30.57" N 141° 53'27.61" E 標高 47 m

Go



釜石市立釜石東中学校

○ 第18地割

© 2011 Geocentre Consulting

© 2011 ZENRIN

Google ea

取得日: 2011/4/1

39° 19'35.38" N 141° 53'24.41" E 標高 6 m

高度 493



(津波襲来直前に鶴住居地区住民が撮影)

釜石市の防災教育が生んだ奇跡

(群馬大学大学院 片田教授の指導による)

- 小学生1,927人、中学生999人のうち学校管理下児童・生徒は全員無事(在宅者5名が犠牲)

信念

「大いなる自然の営みに畏敬の念を持ち、行政に委ねることなく、自らの命を守ることに主体たれ。」

避難3原則

- ・想定にとらわれるな
- ・最善を尽くせ
- ・率先避難者たれ

鵜住居地区



間違って防災センターに避難した210名が犠牲

中学生の率先した避難行動が命を守った。

釜石市鵜住居防災センター







• 東日本大震災の教訓

人智は自然に
及ばない

【想定を信じるな】



- 津波に対する知識を深める
- 迅速な避難行動を意識する
- 情報の収集・伝達をリアルタイムに行う
- 安全な避難先を複層化で選定する
- 要援護者への避難支援を具体化する
- 沿岸低地部の避難のあり方を工夫する

・津波による犠牲者がなぜ多くでたか？

- ・避難者に津波警報(津波高)が伝わらなかった。3m・6m・10m以上
- ・想定区域外で犠牲者が多く出た。
(イメージの固定化が避難を遅らせた)
- ・防潮堤に頼り過ぎて避難が間に合わなかった(施設に依存)
- ・津波は潮が引いてからくる(誤解)
皆が降りてるから大丈夫、財産保全の為いったん帰宅(正常性バイアス・同調性バイアス)
- ・行政防災無線の屋外放送設備が地震で放送されなかった。(閑上)

● 東北の被災地で起きたこと

- 行政の被災によって、水、食料、毛布など支援物資が滞留した
- ボランティアセンターの開設が出来ず、災害ボランティアの受け入れが遅延した。
- インフラ(電気、水道、ガス、電話、道路)の被災によって、被災者は不自由な生活を余儀なくされた。
- 大量の避難者数に仮設住宅の提供が間に合わず体育館などでの過酷な避難所生活が長期になった。
- 大量の食糧が必要となり、おにぎり、菓子パンしか供給できない期間が続いた。

広島土砂災害 (H26年)



熊本地震

(H26年)



熊本県益城町

4月14日 AM9:26 震度7

4月16日 AM1:25 震度7



熊本地震

- 二度の震度7の激震で**多数の避難者**が発生。
- 余震が長期に亘り、避難生活が**長期化**。
- 地震の揺れから逃れようと多数が**車上生活**。
- **形だけの防災対策**で、支援活動が遅延。



熊本市長のコメント

中越沖地震や東日本大震災を映像等で見えてきたが、自分の住む市が同じような災害に合うとは思ってもいなかった。これまで起こった災害の体験を自分のものとして捉えることが出来ず、災害の備えや訓練を十分に行っていなかったことが、このような混乱を招いてしまった。

（1週間たっても市の体制が整わなかった）

7、熊本地震被災者支援活動

熊本地震

4月14日 21時26分 熊本県熊本地方を震央とする
震源の深さ=11Km. M6.5の地震（前震）が発生
熊本県益城町で震度7

4月16日 1時25分 熊本県熊本地方を震央とする
震源の深さ=12Km. M7.3の地震（本震）が発生
熊本県益城町と西原村で震度7（2.4倍）

4月一連の地震活動は、布田川断層・日奈久断層の活動によって引き起こされたものと考えられる。

7、熊本地震被災者支援活動

熊本・大分地震の被害

◆ついに起きたM7、震度7の激震2回・・・

- **死者50人、(災害関連死201人)**
- 益城町20人犠牲(12人は前震避難後自宅に戻り本震で犠牲)
- 住宅の被害
全壊6,990棟、半壊20,219棟、一部損壊85,635棟
- 道路の寸断132ヵ所(高速道も5区間が通行止め)
- 停電47万戸(最大)
- 携帯電話基地局 停波344局
- NHK南阿蘇局 6時間で非常用電力停止後に停波
- **断水(最大47万世帯)**
- **避難者 最大18万人**
- 経験のない1,612回の余震数(5月末)



益城町宮園の倒壊した公民館





旧耐震基準の建物

新耐震基準の建物

熊本市東区

戸島西

トーカンマンション



• 熊本市東区戸島西トーカンマンションの破断の様子





フツ煮、などの料理で、
をバランス良く含んだ水
です。酸度は「まろやか」
な25度、日本人の味覚
にあつた味わいを持ち、料
理づくりに通しています。

ALYIA25
です。酸度は「まろやか」
な25度、日本人の味覚
にあつた味わいを持ち、料
理づくりに通しています。

な25度、日本人の味覚
にあつた味わいを持ち、料
理づくりに通しています。







・ 発災当初の益城町の様子



・ 発災直後の避難所



・熊本地震被災者支援活動





益城町テクノ仮設団地での支援活動



災害関連死の事例

- 阪神淡路大震災 死者6434人 関連死14%
- 東日本大震災 死者22062人 関連死16%
- 熊本地震 死者251 **関連死75%**

過去の災害と比較して、熊本地震の関連死の多さが突出している

災害対応に隙があったことが窺える

九州北部豪雨被害

平成29年7月5日～
日田市

- 死者3名
- 全壊45棟
- 半壊269棟
- 床上浸水143棟
- 床下浸水781棟

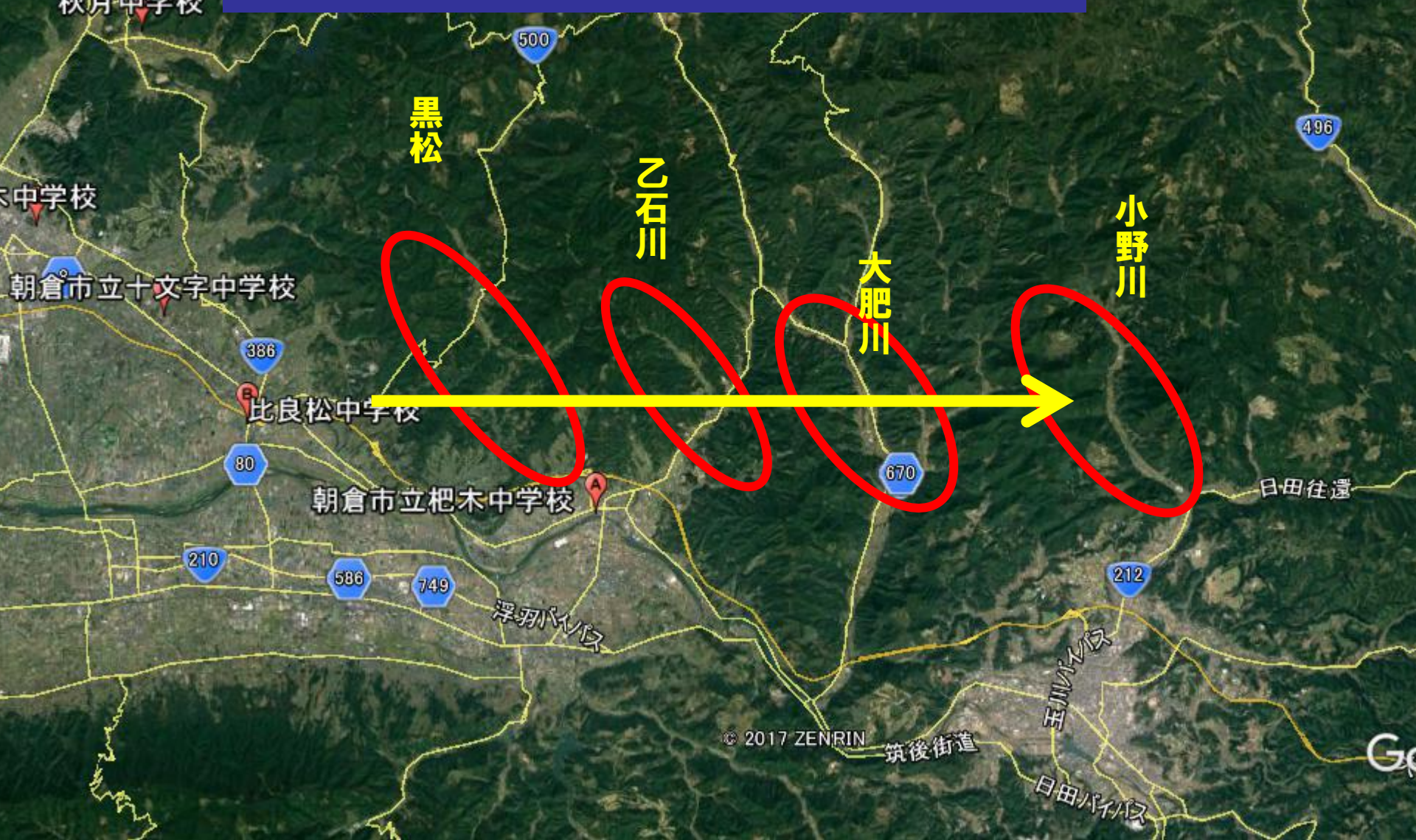




日田市小野地区鈴連町の土砂災害



線状降水帯による豪雨被害







台風18号の被害



西日本豪雨 (H30年)



1 1 府県に特別警報

(西日本豪雨)

京都、岐阜、兵庫、鳥取、岡山、広島、
愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎

期間内総雨量

高知県馬路村	1 8 5 2,	5 ≡ リ
徳島県那賀町	1 3 6 5,	5 ≡ リ
岐阜県群上市	1 2 1 4,	5 ≡ リ
愛媛県西条市	9 6 5,	5 ≡ リ
佐賀県佐賀市	9 0 4,	5 ≡ リ
福岡県早良区	8 5 9,	5 ≡ リ

平成30年7月豪雨 (気象庁が命名)

6月28日～7月8日

西日本～中部地方～北海道

台風7号及び梅雨前線の影響による集中豪雨

梅雨前線 7月2日～4日 北海道に停滞

7月5日～8日 西日本に停滞

台風7号がもたらした湿った南風

死者 **220名** 行方不明 **10名**

全半壊家屋 10、026戸

浸水家屋 34、300戸

被災状況

- **広島県** 土石流、土砂崩れ 5000箇所
安芸郡坂町 **砂防ダム**の崩壊（15人）
花崗岩が風化した真砂土（まさど）

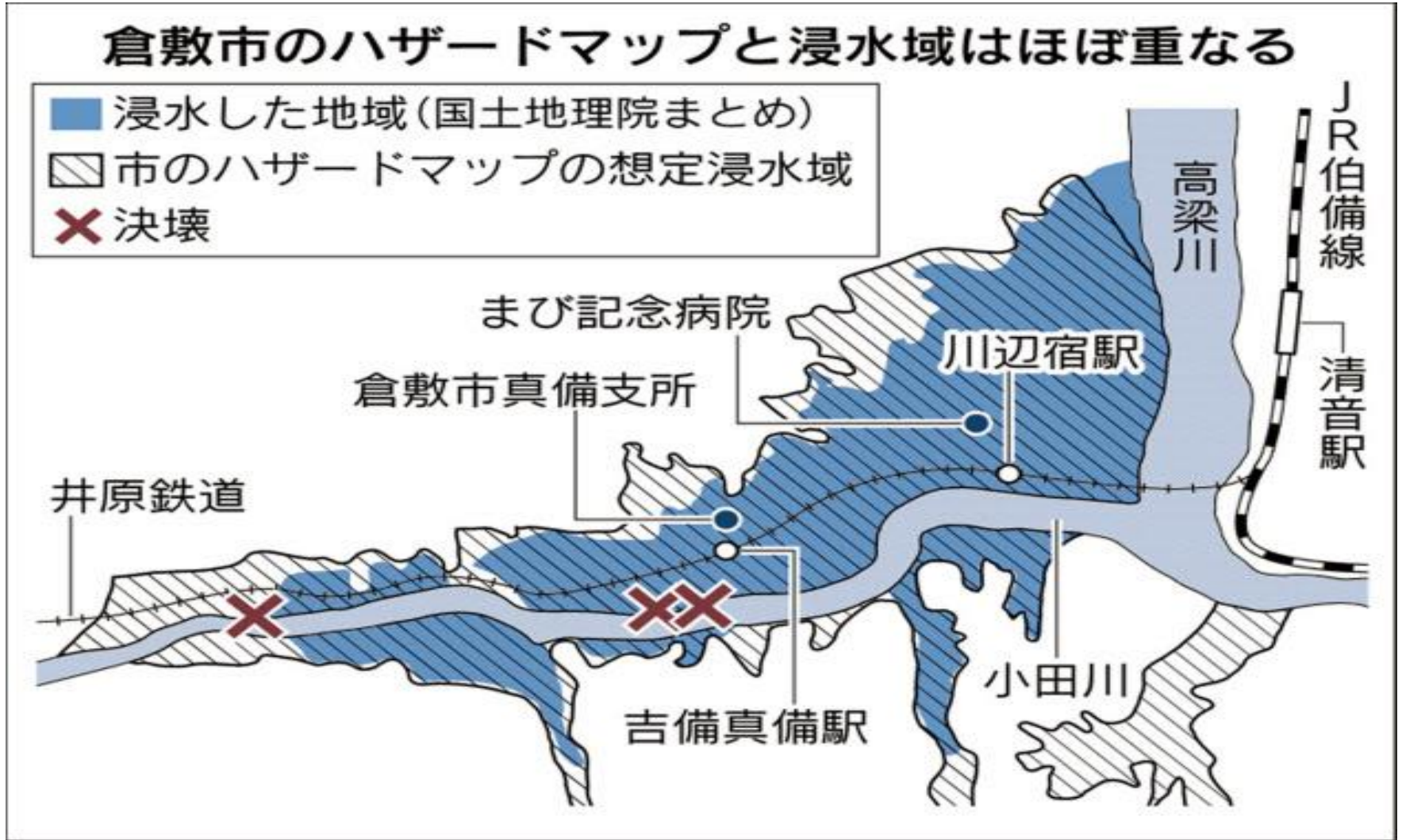
安芸郡熊野町	12人
呉市	24人
東広島市	12人
三原市	8人



過去の教訓が生かされなかった ?

被災状況

- 岡山県 真備町 小田川、高馬川堤防決壊











26

25

Handwritten notes or labels attached to a vertical post.

災害支援 (Disaster Support)

Handwritten labels on boxes, including '177' and '177'.

コロホッ...

ハザードマップが活かされていない

小田川流域で「100年に一度」とされる
2日間で225ミリの雨が降った場合、地
域の大半が2階の軒下まで浸水する。

(約5m以上)

想定

今回の雨量 岡山県内48時間 300~400ミリ

見ていない住民が多くいた、それを徹底で
きななかった行政も、反省材料。

避難状況

真備町

7/6	22:00	全域避難勧告
	22:40	大雨特別警報（倉敷市）
	23:45	小田川南側避難指示
7/7	1:30	小田川北側避難指示
	1:34	高馬川堤防決壊
	6:52	小田川堤防決壊

高梁川増水による、バックウォーター現象
夜間の為、避難が遅れた？

真備町で亡くなった方

90代	3名
80代	17名
70代	20名
60代	4名
40代	2名
20代	1名
10歳未満	1名

60歳以上

44名 92%

70歳以上高齢者

40名 84%

合計 50名

ダム放流による被災

- 愛媛県 西予市 野村ダム 肱川氾濫
大洲市 鹿野川ダム 市内冠水



宇和島市

八幡浜市

西予市

伊方町

水道水

ミカン畑灌漑用水

進まぬ防災対策

- 警報の理解

警報の理解 1

大雨警報  土砂災害警戒情報

命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況

崖下や沢の近くに住む人には、命の危険が迫っている

- 住民の自主避難の判断を支援する。
- 避難勧告の判断

警報の理解 2

記録的短時間大雨情報

現在の降雨がその地域にとって
土砂災害浸水、洪水に繋がるような、
稀にしか観測しない雨量であることを
知らせる情報

警報の理解 3

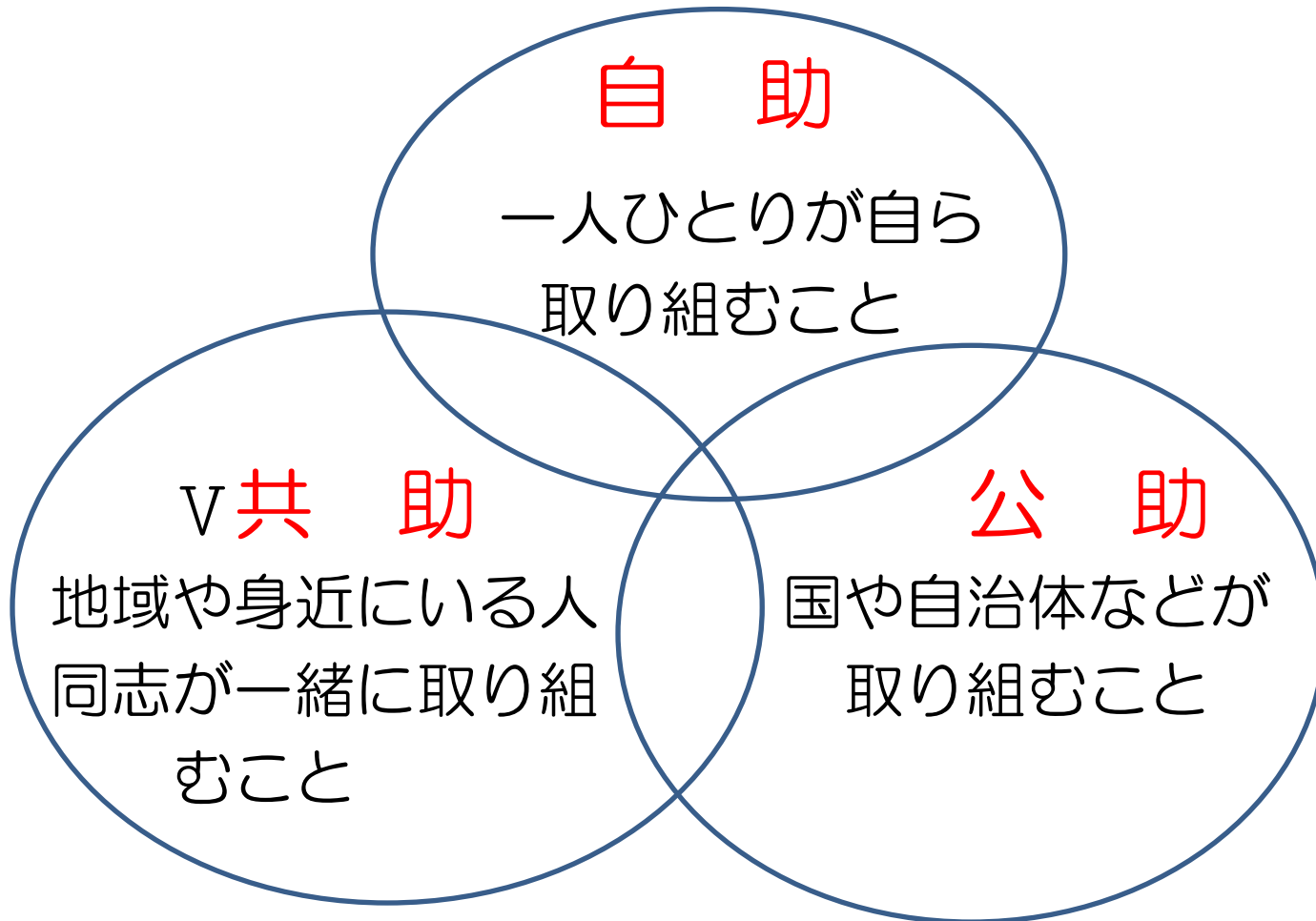
大雨特別警報

48時間か3時間の雨量がその地域で「50年に一度」あるかの判断により、気象庁と関係する都道府県で発令するもの。

直ちに命を守る行動を！！

防災活動の基本

災害による被害を出来るだけ少なくする（減災）



最も基本となるもの

『自 助』

「自分の身を守ること」

自分が助からないと周囲の誰も
助けることは出来ません。

災害に、遭遇した場合の身の守り方を
家族と共に知っておく。

日頃からの対策（訓練や備え）が
命を守る。

自分と家族を守る

- 住宅の耐震性 耐震診断と補強

- 家具・器具の固定

ガラスには、飛散防止シートで補強等

- 備蓄品の準備 水・食料最低3日分

懐中電灯・ラジオ等々

- 地域、自分の住んでいる所危険箇所把握

- ハザードマップの確認

- 避難場所・避難所の確認 等々

避難場所・避難所の選定

発災時、家族が一緒とは、言えない。

家族での災害図上訓練を行う。

大災害になると、家族での連絡が取れない
場合が出てくる。

どこに行けば家族に会えるのか？

平常時から、

家族での話し合いを





共 助

自衛隊、警察、消防の救援・救助
がすぐには期待できない。

公助の力が及ぶ迄の3日間（72時間）
をいかに生き延びるか。



地域の総合的な力「地域の防災力」を
向上させて助け合って、住民相互の安全
を確保する。

自主防災活動（地域ぐるみの支え合い）

防災知識の普及・啓発

地域学習会等で正しい知識を得る

防災訓練

自分たちの住む地域はどんなところ？

地域のリスクを確認し合う。

発災時どう逃げるのか？

避難場所は？指定避難所は？

災害図上訓練・街歩き

地域のみんなで決める

避難時の判断を誤った事例

- 兵庫県佐用町の悲劇（作用川の氾濫）
2009年（H21年）8月9日
20：20～30分頃
佐用町の幕山住宅に住む、Aさん、Bさん
Cさん一家合計11名
降り続いた雨で20cm位流れている道路を
避難所の幕山小学校へと向かった。
途中田んぼと道路の間を流れる水路に足をと
られて流され2名は助かったが残る9名が亡
くなった。
避難勧告＝21：20分に発令







自主避難の判断

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険個所が解りにくい。
- ヒザ上まで浸水している
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落の恐れがある。

垂直避難（屋内安全確保）







土砂災害に備える (STEP 1)

1. 自宅周辺のリスクを確認する。
自分の住んでいる所の地形や危険個所を地図等で確認する。
過去の災害履歴の確認
どんな災害が起こりそうか？想像する
2. 避難できる準備をしておく
避難場所や避難経路を確認しておく
気象情報に耳を傾ける
防災情報の入手方法をあらかじめ知る

土砂災害に備える (STEP 2)

雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意
TV, ラジオ、気象庁のホームページ等で
確認。

大雨による土砂災害の危険度が高まった時
市町村が避難勧告を発令するときの判断
住民の自主避難の判断の参考になるよう
都道府県と気象庁が共同で発表する情報。
崖下や沢の近くに住む人には、命の危険が
迫っていることを知らせる情報

土砂災害に備える (STEP 3)

土砂災害警戒情報が発令されたら、早目に
「立ち退き避難」

近くの避難場所、安全な場所へ避難する。
出来るだけ明るいうちの予防的避難。

「念のための早期自主避難」を

避難に時間がかかる人は移動時間を考慮
避難するときは、隣近所にも声掛け。

体の不自由な人が居たら手を貸して一緒に
避難

自主防災活動(地域ぐるみの支え合い)

■防災知識の普及啓発

- 地域研修会等を通じて、正しい災害知識を得る

■防災訓練

- 避難のタイミングを理解する。
- 地域の危険箇所等の把握 (災害図上訓練・街歩き)
- 安全な、避難場所の選定、避難ルートを選定
- 災害弱者対策の検討

■備蓄

- 地域に必要な防災資材を備蓄する。

大分市富士見が丘防災訓練





災害時要配慮者の支援体制構築

災害時要配慮者

- 高齢者・障がい者・難病の人・乳幼児
妊婦さん・観光客・外国人等々
- 災害時に支援が必要な人
地域の皆で助け合う体制づくり
自治会長・民生委員・防災会
- 避難行動要支援者個別計画の推進



滝尾地区災害時要支援者のための研修会

大分市滝尾校区 長谷町防災会 「災害時避難行動要支援者等の把握について」



防災士に期待される役割

- 組織的活動の必要性について



佐伯市への合同視察研修(大分市滝尾校区)

球磨村の特養「千寿園」

- 2020年7月豪雨で入所者14名が犠牲。



渡 駅
WATARI STATION

熊本県警察

POLICE





日本郵便株式会社
足利支所

現在
道路工事
中

7月豪雨災害の宝泉寺温泉へ



防災士に期待される役割



南海トラフ地震の被害想定

死者 33万人 (37都府県)

倒壊家屋 238万棟

経済被害 220兆3,000億円

地震発生後1週間

食糧 9,600万食不足

飲料水 1億4,500万ℓ不足

避難所生活者 500万人

スーパー・コンビニ商品が消える
ガソリン等がなくなるかも・・・

被災地への支援

- ※日本の人口・・・・・・・・・・・・・・・・12700万人
- 阪神淡路大震災の被災地人口・・・350万人
被災地人口:支援人口 = 1:40
- 東日本大震災の被災地人口・・・・750万人
被災地人口:支援人口 = 1:16
- 首都直下地震の被災地人口・・・2500万人
被災地人口:支援人口 = 1:4
- 南海トラフ地震の被災地人口・・・3200万人
被災地人口:支援人口 = 1:3

大分県の被害(南海トラフ)

- 経済損失 最大2兆円
- 避難者数 12万人(1週間後)
- 断水率 91%
- 道路損壊 1300カ所
- 停電率 89%
- 鉄道被害 470カ所
- 携帯電話の停波基地率 77%

【南海トラフによる地震津波】

- 大分市豊海 4.3m
 - 別府亀川東 4.7m
 - 杵築市 3~4m
-
- 大分県の死者 2万2千人
 - 全壊、焼失数 3万1千棟

【杵築市の人的被害予測】

- 冬5時 死者329人
- 夏12時 死者377人

防災対策の課題

災害に備えて

---事前に取り組む(準備する)こと---

- 地域に発生し得る被害想定を行う。
- 対応に必要な体制を構築する。
- 想定に合わせた訓練を計画する。
- 家庭・職場での備蓄(1週間分)を準備。
- 地域・職場で資器材を揃える。(水、食糧、簡易トイレは必ず)
- 防災リーダーの養成を行う。
- 時間をかけて、住民・従業員の意識を向上させる。

発災時の対応

- 地区災害対策本部の開設
- 避難所の開設
- 避難誘導、避難支援、救出、救護、搬送
- 避難者受け入れ、避難者名簿作成
- 市災害対策本部への報告(被災状況、避難所開設)
- 避難所運営スタッフの配置(責任者、ローテーションほか)
- 避難者数、名簿など市災害対策本部へ連絡(IT活用も)
- 水・食料、資器材などの受け入れ、もしくは調達と炊き出し
- 災害情報、周辺情報、行政情報など避難者へ提供
- 避難所運営要員の確保、支援者、災害ボランティアの受け入れ
- 避難所環境(衛生環境、住環境)の改善
- 地域の安全パトロール実施

避難所での対応について

・避難所とは

- 昭和22年に定められた災害救助法は、災害に際して国が、地方自治体、日本赤十字社その他団体及び**国民の協力の下に**、**応急的に、必要な援助を行い**、被災者の保護と社会の秩序の保全を図ることを目的としています。
- その中に、「避難所」とは、「現に救助を必要とする者」に対して「供与する」と規定されています。
 - 応急**とは？ 急場にとりあえず間に合わせること。
 - 供与**とは？ 相手が欲する物品・利益などを与えること

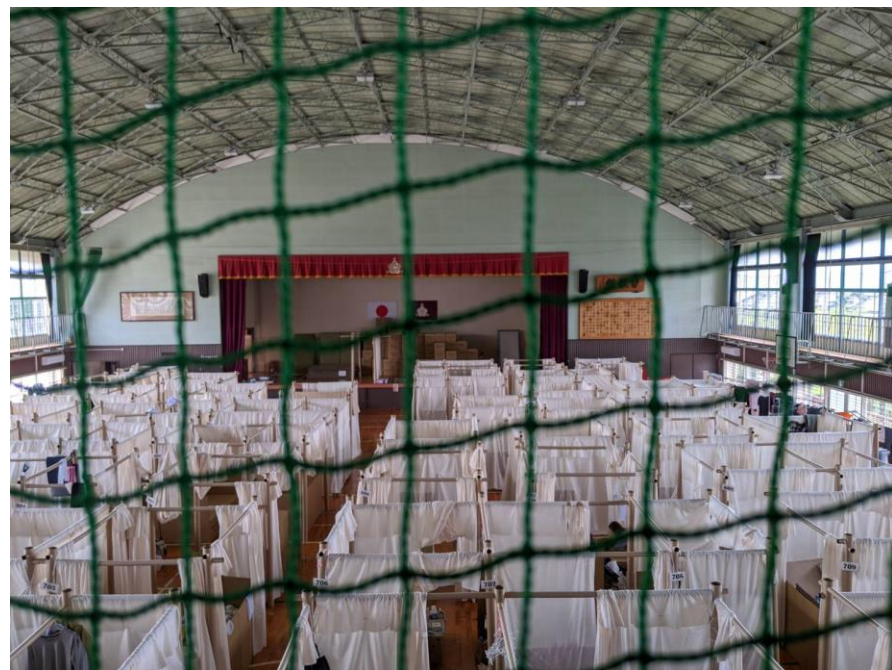
。

• 避難所運営がまずいと

- 災害が発生し、命は助かったのに、
「災害関連死」で命を落とす

◆ 東日本大震災では

- 災害関連死 1 6 3 2 人中、6 6 歳以上の方が 9 割
- 発災から 1 カ月で 5 割、3 カ月で 8 割
- もともと病気を持っている方 6 割
- 避難所での生活による肉体的・精神的なことが原因 3 割



ハード、ソフトの防災対策を生かすのは“人”

- 継続できる自主防災活動と組織とは
- 防災対策の道筋を極めるためには



終わり